

清武町文化財調査報告書 第8集

YAMADA

山田第1遺跡

山田第2遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査概要報告書

2 0 0 0

清武町教育委員会



山田第1遺跡 G区全景



山田第1遺跡 S1-47・48・50・54・55

## 序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全事業に伴い、平成 11 年度事業区で実施した山田第 1 遺跡及び山田第 2 遺跡の発掘調査概要報告書です。

船引地区においては、ここ数年東九州自動車道の建設工事や本事業に伴う発掘調査が連続して行われていますが、それによりこの地域で暮らしてきた人々の生活の様子が、少しずつですが想像できるようになってきました。

今年度の調査では、狩猟の際に使用した石の鎌や、獲物を捕獲するための陥し穴、又燻製の保存食を作ったと思われる連穴土坑や、蒸し焼き料理をしたと思われる集石遺構など、縄文時代早期の“食”に関する資料が特に数多く確認され、当時の人々のバラエティー豊かな“食”生活の一部を伺い知ることが出来ました。

これら先人たちの残した文化遺産が、来る 21 世紀を担う子供たちへ着実に継承されるとともに、子供たちの“豊かなこころを育む”教育の場に生かされることが出来れば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成 12 年 3 月

清武町教育委員会

教育長 湯 地 敏 郎

## 例　　言

1. 本書は、県営農地保全事業（船引地区）に伴う、山田第1遺跡及び山田第2遺跡の発掘調査概要報告書である。

2. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体　　清武町教育委員会

### 事務局

教育長　湯地敏郎

教育次長　清俊郎

社会教育課長　谷口紘一

社会教育課文化係長　川越健

### 調査員

社会教育課主任　伊東但

社会教育課主事　井田篤

社会教育課嘱託　松原一哉

3. 図面の作成は井田・松原他、実測補助員（

）が行った。

4. 遺物、図面の整理は、清武町文化財管理事務所において、井田・松原及び整理作業員（  
）が行った。

5. 掘図の実測、拓本、トレースは伊東、井田、松原、船石、沼口、若藤及び柳田裕三（別府大学）が行った。

6. 本書に使用した写真は、井田、松原が撮影し、空中写真については株式会社スカイサーベイに委託した。

7. 本書に使用した記号は次のとおりである。（遺構番号は各遺跡ごと）

SI:集石遺構 SC:土坑 SA:竪穴式住居

8. 本書に使用した方位は磁北で、レベルは海拔絶対高である。

9. 基本土層や遺構埋土の色調については、「新版 標準土色帖」（1997年後期版）の土色に準拠した。

10. 本書の編集・執筆は第1・3章を井田が、第2章を松原が行い、文責は目次に示した。

# 目 次

第1章 はじめに.....	(井田) 1
第1節 調査にいたる経緯.....	1
第2節 遺跡の位置と環境.....	1
第2章 山田第1遺跡.....	(松原) 4
第1節 調査の概要.....	4
第2節 集石造構.....	6
第3節 壑穴式住居跡.....	9
第4節 出土遺物.....	12
第5節 まとめ.....	12
第3章 山田第2遺跡.....	(井田) 16
第1節 調査の概要.....	16
第2節 連穴土坑.....	18
第3節 陥し穴.....	20
第4節 土坑.....	22
第5節 出土遺物.....	23
第6節 まとめ.....	23
調査抄録	
山田第1遺跡・第2遺跡.....	27

## 挿 図 目 次

第 1 図	位置図(1/50000).....	2
第 2 図	山田第1・第2遺跡周辺地形図(1/5000) .....	3
第 3 図	山田第1遺跡基本土層図(1/30) .....	4
第 4 図	山田第1遺跡遺構配置図及び縄文時代早期遺物分布図(1/1250) .....	5
第 5 図	山田第1遺跡A地区竪穴式住居跡群配置図(1/400) .....	9
第 6 図	山田第1遺跡SA-2実測図(1/60) .....	10
第 7 図	山田第1遺跡SA-2出土遺物実測図(1/4) .....	10
第 8 図	山田第1遺跡出土遺物実測図1(1/2) .....	13
第 9 図	山田第1遺跡出土遺物実測図2(1/2) .....	14
第10図	山田第2遺跡基本土層図(1/30).....	16
第11図	山田第2遺跡遺構配置図(1/700).....	17
第12図	山田第2遺跡SC-75(1/30).....	18
第13図	滑川第1遺跡SC-208(1/30).....	18
第14図	山田第2遺跡SC-70(1/30).....	20
第15図	山田第2遺跡SC-71(1/30) .....	20
第16図	山田第2遺跡端部にピットを有するタイプの土坑模式図.....	22
第17図	山田第2遺跡出土遺物実測図1(1/2) .....	24
第18図	山田第2遺跡出土遺物実測図2(1/2) .....	25

## 図 版 目 次

図版 1	山田第1遺跡全景.....	4
図版 2	山田第1遺跡SI-49 .....	7
図版 3	山田第1遺跡SI-39・45 .....	7
図版 4	山田第1遺跡SI-43 .....	7
図版 5	山田第1遺跡SI-12・13 .....	8
図版 6	山田第1遺跡SI-8半載状況 .....	8
図版 7	山田第1遺跡SI-15 .....	8
図版 8	山田第1遺跡SA-1完掘状況 .....	11
図版 9	山田第1遺跡SA-2遺物出土状況 .....	11
図版 10	山田第1遺跡SA-3完掘状況 .....	11
図版 11	山田第1遺跡SC-10遺物出土状況 .....	11
図版 12	山田第1遺跡A地区竪穴式住居跡群 .....	11
図版 13	山田第1遺跡出土遺物 .....	15
図版 14	山田第2遺跡全景 .....	16
図版 15	山田第2遺跡SC-74完掘状況 .....	19
図版 16	山田第2遺跡SC-75完掘状況 .....	19
図版 17	山田第2遺跡SC-68完掘状況 .....	19
図版 18	山田第2遺跡SC-69完掘状況 .....	19
図版 19	滑川第1遺跡SC-208完掘状況 .....	19
図版 20	山田第2遺跡SC-70断面状況 .....	21
図版 21	山田第2遺跡SC-70逆茂木痕 .....	21
図版 22	山田第2遺跡SC-77検出状況 .....	21
図版 23	山田第2遺跡SC-77完掘状況 .....	21
図版 24	山田第2遺跡SC-71完掘状況 .....	21
図版 25	山田第2遺跡SC-72完掘状況 .....	21
図版 26	山田第2遺跡SC-23完掘状況 .....	22
図版 27	山田第2遺跡SC-20完掘状況 .....	22
図版 28	山田第2遺跡出土遺物 .....	26

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

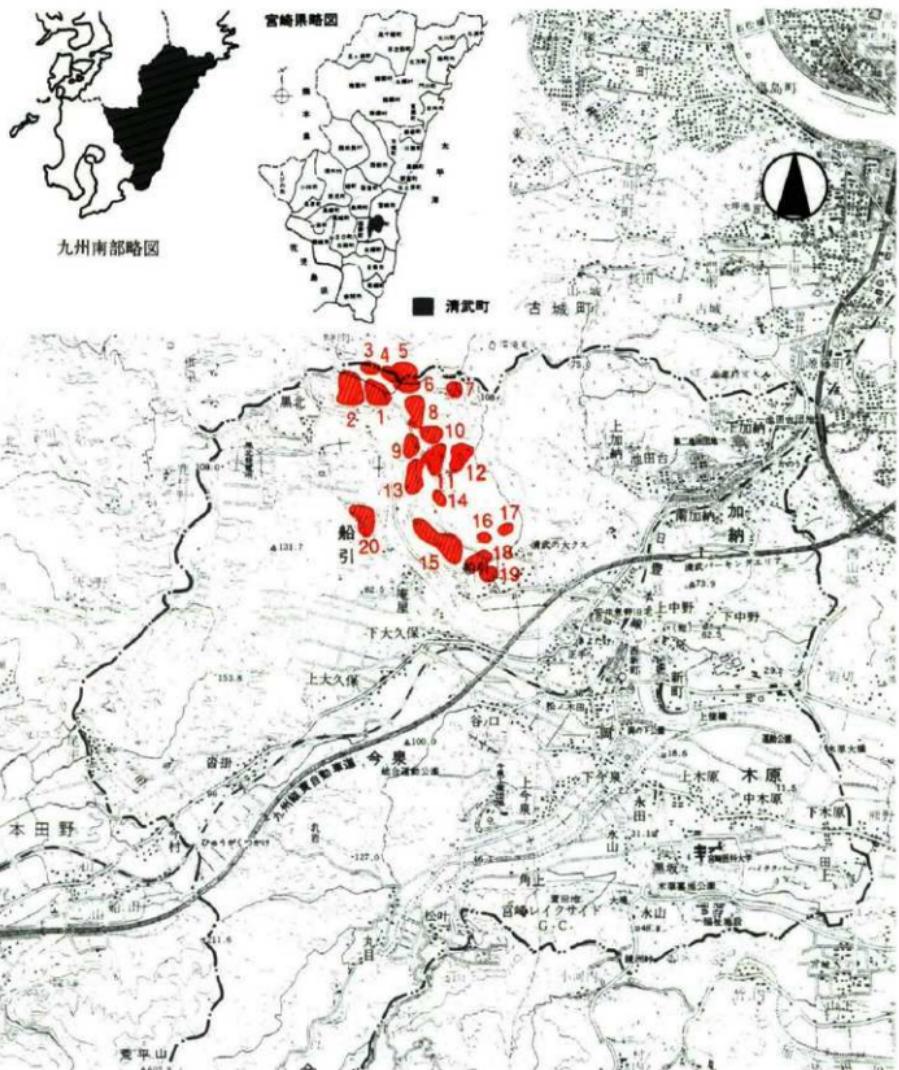
平成7年度より行われている清武町船引地区の県営農地保全事業に伴い、事業区の一部に山田第1遺跡・第2遺跡が含まれることが確認された。遺跡の取り扱いについて宮崎県中部農林振興局と協議したところ、耕作土の確保等の事業設計上の理由により、やむを得ず削平されることになった部分及び新設される道路・排水路部分において発掘調査を行い記録保存することになった。

調査は宮崎県中部農林振興局の委託を受け清武町教育委員会が実施し、期間は平成11年4月28日から平成12年3月30日まで、調査面積は山田第1遺跡が約7400m<sup>2</sup>、山田第2遺跡が約4300m<sup>2</sup>である。尚、両遺跡においては3枚の文化層が確認されている。

## 第2節 立地と環境

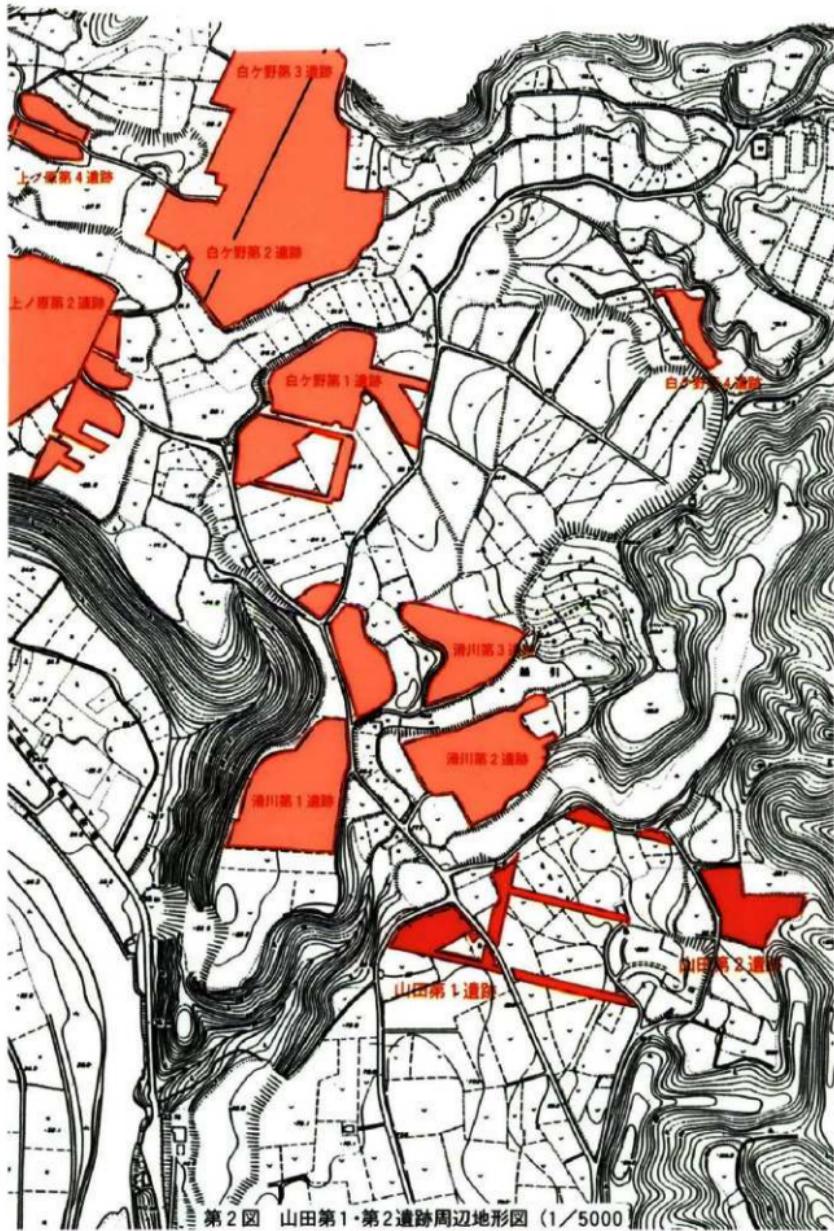
幕末の大儒「安井息軒」を生み、今なお文教田園都市として発展を続ける清武町は、県央宮崎平野の南西部に位置し、県庁所在地である宮崎市に隣接している。山田第1遺跡・山田第2遺跡は町の北西部に位置する船引地区に所在するが、当地区にはこの他にも宇佐八幡宮とゆかりの深い船引八幡神社や、その境内にあり国の天然記念物に指定されている清武の大楠など数多くの文化財が残されている。

両遺跡は町内を流れる清武川左岸のシラス台地上に位置するが、山田第1遺跡は標高80m～85mの台地の平坦部に立地し、谷を挟んで滑川第1遺跡・第2遺跡と隣接している。又山田第2遺跡は、山田第1遺跡を西に見おろす標高約102mの丘陵尾根部からの緩斜面上に立地していて、その立地条件は同台地上の白ヶ野第4遺跡とよく似ている。近隣には宮崎県教育委員会主体によって調査が行われ、縄文時代後期及び古墳時代中期の竪穴式住居や、中世から近世にかけての掘立柱建物跡などが検出された上ノ原第1・2・3・4遺跡、カマドを有する竪穴式住居が検出され、当台地上で営まれた古代の小規模集落の存在が確認された白ヶ野第2・3遺跡、又当教育委員会が調査を行い、旧石器時代の剥片や縄文時代早期の装身具などが出土している白ヶ野第1・第4遺跡、直径約2.3mの掘り込みをもつ巨大な集石遺構や逆茂木痕をもつ陥し穴遺構などをはじめとして、旧石器から中世まで幅広い時期の遺構や遺物が確認された滑川第1・第2・第3遺跡、又今後の調査が予想される坂元第1・第2遺跡などが所在する。



1. 上ノ原第1遺跡 2. 上ノ原第2遺跡 3. 上ノ原第3遺跡 4. 上ノ原第4遺跡 5. 白ヶ野第3遺跡  
 6. 白ヶ野第2遺跡 7. 白ヶ野第4遺跡 8. 白ヶ野第1遺跡 9. 滑川第1遺跡 10. 滑川第2遺跡  
 11. 山田第1遺跡 12. 山田第2遺跡 13. 坂元第2遺跡 14. 坂元第1遺跡 15. 上猪ノ原遺跡  
 16. 札立第2遺跡 17. 札立第1遺跡 18. 下猪ノ原遺跡 19. 園田遺跡 20. 権現原遺跡

第1図 位置図 (1/50000)



第2図 山田第1・第2遺跡周辺地形図 (1/5000)

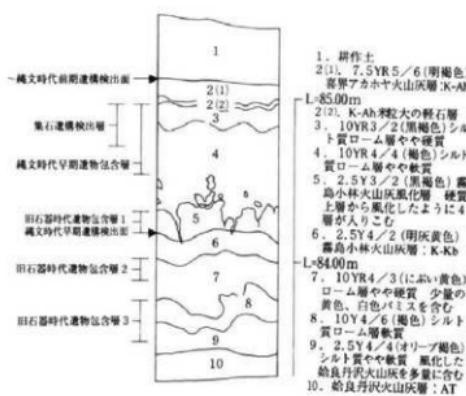
## 第2章 山田第1遺跡

### 第1節 調査の概要

今年度は、農地保全整備事業に伴う、道路及び排水路の部分の調査が主であったこともあり、調査は、A・B区、C・D・E・F区、G区の順で行った。山田第1遺跡としての基本的な層序は、各区共通したものであったが、第1層耕作土を重機で剥ぎ取った段階で、耕作による削平の影響で、すでにアカホヤ火山灰層（第2層）が露出しており、縄文時代前期以降の遺物包含層はほとんど残っていなかった。また、部分的に第3層から第9層までが露出している場所が見られた。

調査はアカホヤ火山灰層（第2層）面での遺構の検出から行い、確認された堅穴式住居跡、土坑などの記録作業終了後、アカホヤ火山灰層（第2層）を除去し、縄文時代早期遺物包含層である第3層、第4層を掘り下げながら、遺物の取り上げ作業と遺構の検出を行った。結果第4層上位から中位にかけて集石遺構とそれに伴う焼疊群が検出された。

また、台地の先端部にあたるA区・B区・G区の一部において旧石器時代の調査を行い、出土した三陵尖頭器や剥片などの取り上げ作業を行った。

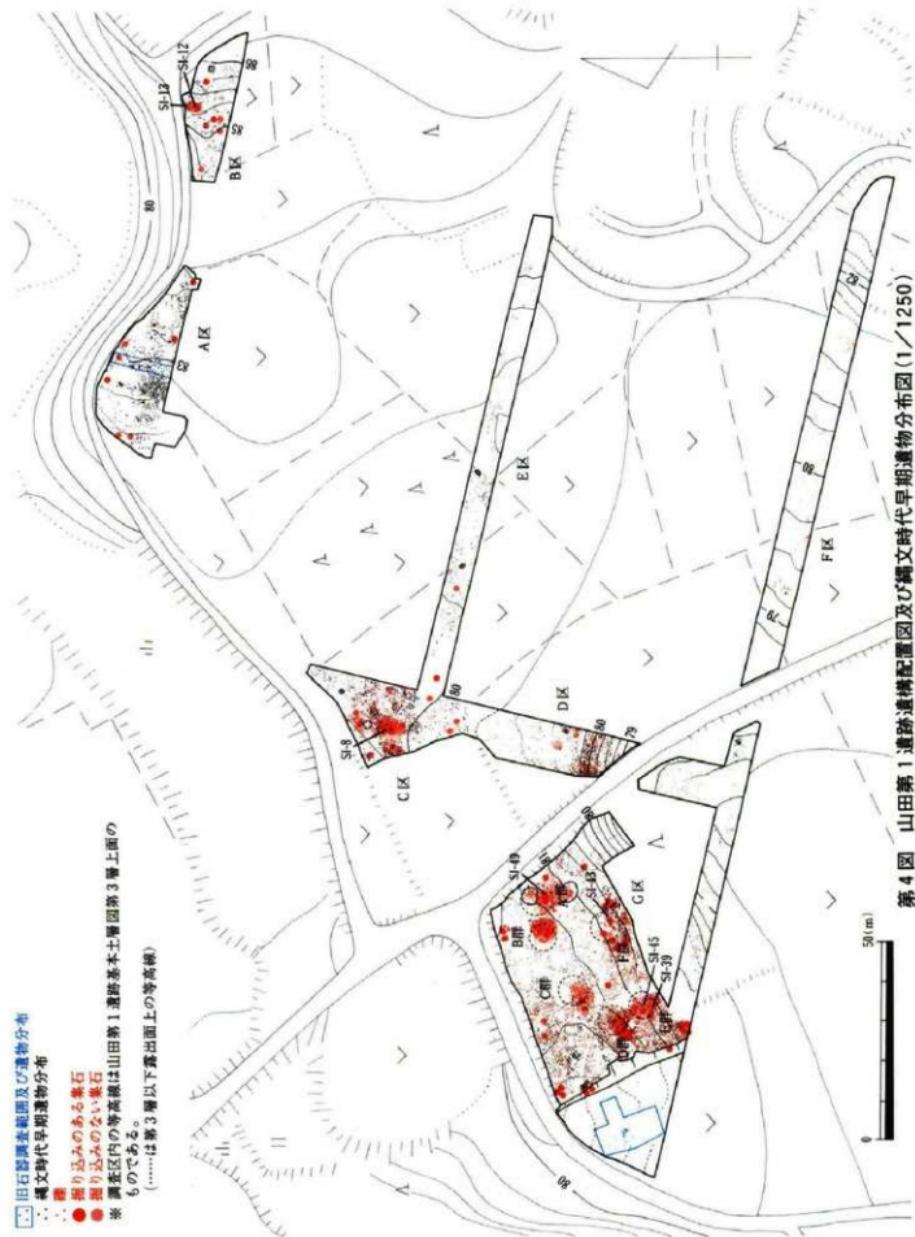


第3図 山田第1遺跡基本土層図(1/30)



図版1 山田第1遺跡全景

第4図 山田第1遺跡遺構配置図及び縄文時代早期遺物分布図(1/1250)



## 第2節 集石遺構

第3層から第4層中位にかけて集石遺構が74基検出された。第3層で確認された4基の集石遺構は、全てB地区において検出されたもので、赤変した角礫が1m前後ほどの範囲のなかに50個～150個程集積した状態で見つかっている。いずれも掘り込みは見受けられず、又炭化物もほとんど見られなかった。第4層上位から中位にかけては70基の集石遺構が検出されているが、このうちG区では約2000m<sup>2</sup>のなかに43基の集石遺構を確認している。このG区では、20～50m<sup>2</sup>の範囲に礫焼が密集して出土する焼礫群が6ヶ所（A～F群）確認されており、それぞれの群について幾つかの特徴的な点が挙げられる。まずA群では、検出面での直径が3m近くを有するSI49（図版2）を中心として周囲40m<sup>2</sup>ほどの範囲に多量の焼礫が、10～20cmほどの堆積厚をもって存在していた。この焼礫群の北端と南端で、円形プランで直径が約5m、検出面からの深さが約80cmの黒色土の埋土をもった窪地が確認されている。2つの窪地には、焼礫が低い密度で入っており、ほとんどが埋土内に浮いた状態であったが、南端のものでは、底面中央付近から直径30cm程度の石皿状の焼礫が見つかっている。C区・D区では、検出面での直径が約2m、深さが20cm程度の浅い掘り込みに焼礫が密度高く入り、配石をも有していたSI18（図版6）を中心とした約50m<sup>2</sup>ほどの範囲に、厚さ10から20cmの堆積厚を持って焼礫が確認されている。この焼礫群の北端で、検出面での直径が約2.5m、深さが0.3m近くの、やはり黒色土の埋土をもつ円形の窪地が見つかっている。中心となる集石遺構と周辺の焼礫、及びこの円形の窪地がどのような関連性を持つのかは、今後の検討を要する。G区におけるB、C、D、E群の4ヶ所では、焼礫群の中で確認された隣接する集石遺構どうしが接する状態で検出されており、いずれも掘り込みの形状は皿状を呈しており、埋土は、中心に黒色土が、その外側に第4層土と黒色土が混ざった状態で、集石内の焼礫は、ほとんどが黒色土の中で浮いた状態で見つかっている。ただE群におけるSI39（図版3）は浅い皿状の掘り込みの床面に、礫が密度高く入っており、これに接するSI45（図版3）は、SI39に比べやや深い皿状の掘り込みと、さらに一段深くなる中央底面に配石をもっており、この2つの集石遺構の関連性を考える必要がある。F群の焼礫群は他の焼礫群に比べ礫が小さく、この礫群内で検出されているSI43（図版4）では、破碎されたような小さな礫が埋土内に浮いた状態で入っていた。ただ、掘り込みの形状や礫の出土状況及び埋土は他の集石遺構と似通っていた。これらの礫群は、共に20～50m<sup>2</sup>の範囲にわたる広がりを持っていたが、A群を除いて、礫群の中で検出された集石遺構は、礫群の広がりの中心からはややはざれた所に位置していた。この他、B地区において第4層面で検出されたSI12、SI13（図版5）では、掘り込みの中に入っている礫の密度が低く、ほとんどが埋土内に浮いた状態のSI12に、掘り込みのないSI13が近接して検出されており、それぞれの集石遺構の使用用途も含めて検討する必要がある。



図版2  
山田第1遺跡  
SI-49



図版3  
山田第1遺跡  
SI-39・45



図版4  
山田第1遺跡  
SI-43



図版 5  
山田第 1 遺跡  
SI-12・13



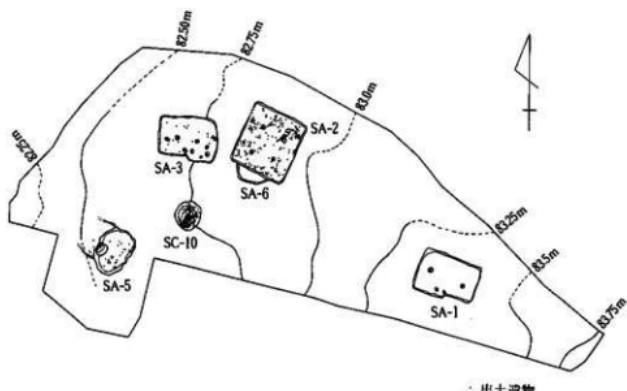
図版 6  
山田第 1 遺跡  
SI-8 半載状況



図版 7  
山田第 1 遺跡  
SI-15

### 第3節 竪穴式住居跡

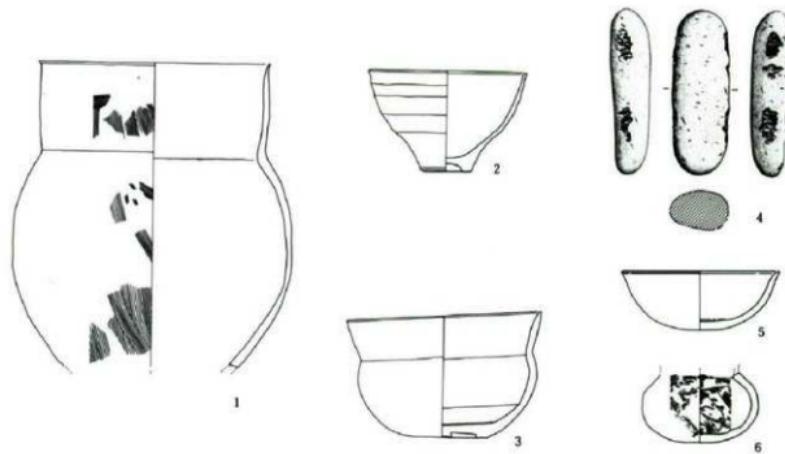
アカホヤ火山灰層（第2層）上面において竪穴式住居跡4軒を検出した。SA1は平面プランが不整形な隅丸長方形を呈しており、確認された4本の柱穴も配列が不規則であった。このことは拡張されたのか、あるいは構築時期の異なるものが重なっていたのかの可能性を伺わせる。SA1は埋土に特徴があり、山田第1遺跡基本土層図（第3図参照）のアカホヤ火山灰土と第3層土及び第4層土が混ざり合ったものが、軟質の上層と硬質の下層の2層に分かれていた。自然の堆積とは考えにくいこの埋土のうち、特に硬質の下層土については、遺構の最終的な底面が7~8cm幅のうねりを持っていたことや、柱穴の埋土が軟質の上層土のみであったことなどから推察して貼床であった可能性も考えられる。ただ、床面と思われる硬質の下層土上面で柱穴を確認出来なかったことなどもあり、貼床と確定するまでには至っていない。又、SA3もSA1と平面プラン、柱穴及び埋土がほぼ似たような状況であった。SA5及びSA6は擾乱の影響を多く受けている。部分的なプランのみの検出状況であったりと明確な形状は確認できなかったが、埋土はいずれもSA1と同様のものであった。SA2はこれらの竪穴式住居跡とは様相を異にしている。平面プランは1辺が約5mの隅丸正方形で、検出面から床面までは約0.4mあり、4本の柱穴を確認している。埋土は自然に堆積したものであり、この埋土からは土師器の壊などが出土している。又床面上からは甕・鉢などが出土している他、住居中央付近では炉跡の存在を伺わせる焼土が炭化物に混じて確認されている。時期は住居の平面形状や出土遺物から弥生時代終末期前後のものと考えられる。このSA2に近接してかなりの量の土器が出土しているSC10が検出されており、SA2との関連性などについては出土遺物などの詳細な観察を通して今後検討する必要がある。



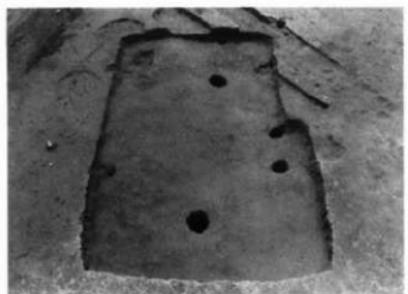
第5図 山田第1遺跡A地区竪穴住居群配置図(1/400)



第6図 山田第1遺跡SA-2実測図(1/60)



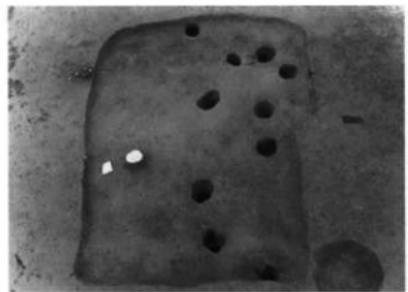
第7図 山田第1遺跡SA-2出土遺物実測図(1/4)



図版 8 山田第 1 遺跡 SA-1 完掘状況



図版 9 山田第 1 遺跡 SA-2 遺物出土状況



図版 10 山田第 1 遺跡 SA-3 完掘状況



図版 11 山田第 1 遺跡 SC-10 遺物出土状況



図版 12 山田第 1 遺跡 A 地区竪穴式住居跡群

## 第4節 出土遺物

出土遺物として、第7層から第9層にかけて三稜尖頭器、剥片、黒曜石のチップなど旧石器時代の遺物が出土している。第3層・第4層からは、土器として縄文時代早期の貝殻文系の円筒土器、押型文土器、桑ノ丸式土器、塞ノ神式土器、平格式土器などが出土している。このうち押型文土器では山形や橢円、あるいは菱形などが施されているものが、塞ノ神式土器では、撚り糸文系・貝殻文系のいずれもが出土している。石器は、石錐、磨石などが出土している。石材としては黒曜石、砂岩、頁岩、チャートなどが使われている。この他に第2層面で検出された住居の床面からは弥生時代終末期前後の甕・鉢などが、埋土の中からは土師器の壊などが出土している。

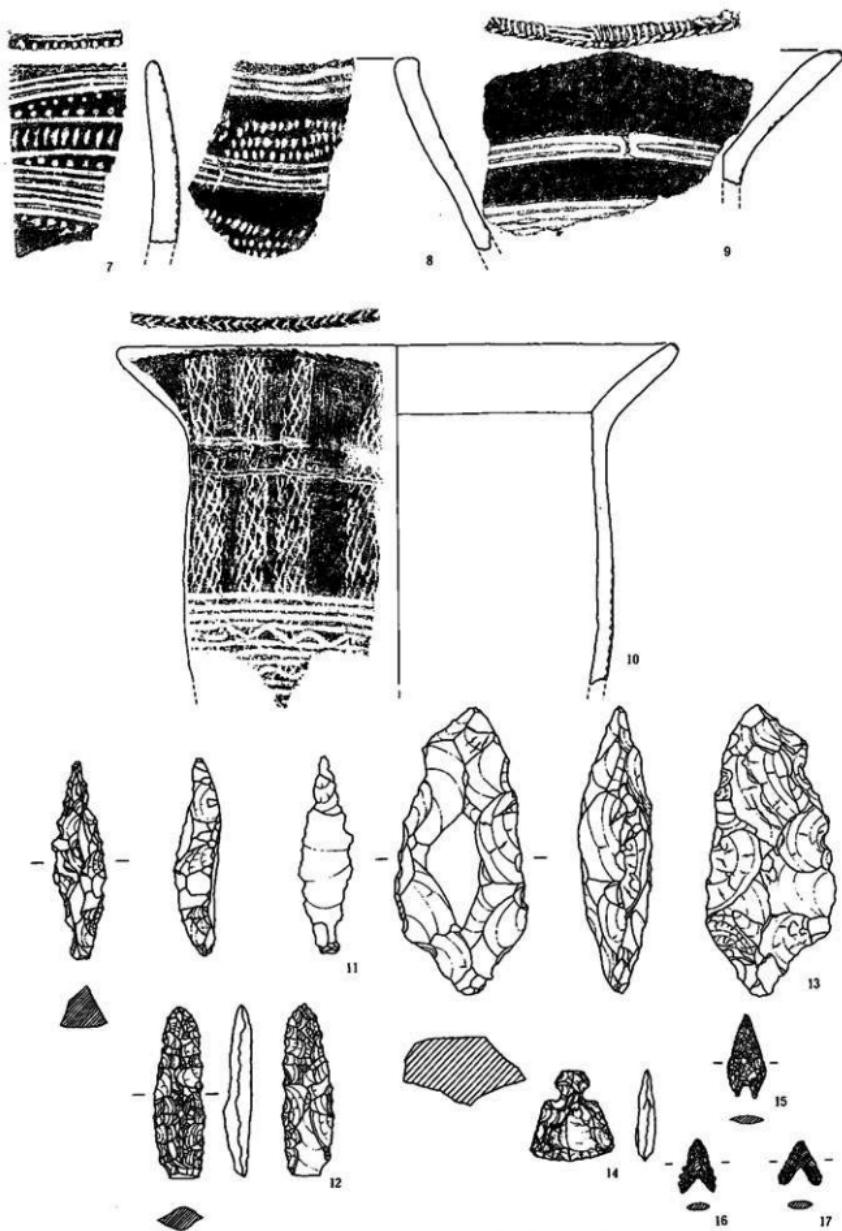
## 第5節 まとめ

山田第1遺跡では、旧石器時代から弥生時代終末期前後にかけての幅広い時代の遺構や遺物が確認されている。調査は、農地保全事業に伴う道路及び排水路部分でのものが主であったため、遺跡の全容を把握する事は出来なかった。遺構は、大きな河岸段丘を開析して入り込んだ谷を望む縁辺部において集中して確認されている。この傾向は平成10年度調査の滑川第1・第2遺跡でも見受けられ、縄文時代早期を通しての人々の活動範囲を伺い知ることが出来る。特にG区では、2000m<sup>2</sup>のある程度まとまった面積の調査が行われ、ここで確認された集石遺構について、幾つかの注目すべきものが見いだされている。幾つか確認された礫群の中に存在する集石遺構のなかで、埋土の慎重な観察を通して掘り込みを調査したところ、近接するものどうしが接する形で存在しているものがあることが分かった。このような接する集石遺構は、同時期に使用されていた可能性があり、この点に関しては今後の調査でも注目しながら、明らかにしていく必要がある。この他、A地区においては4軒の竪穴式住居跡が確認されているが、このうち貼床が施されていた可能性のある住居跡では、貼床と推定される土の堆積厚が20cm近くあり、貼床の用途なども含め、他の遺跡の類例についても詳しく調べたうえで検討する必要がある。

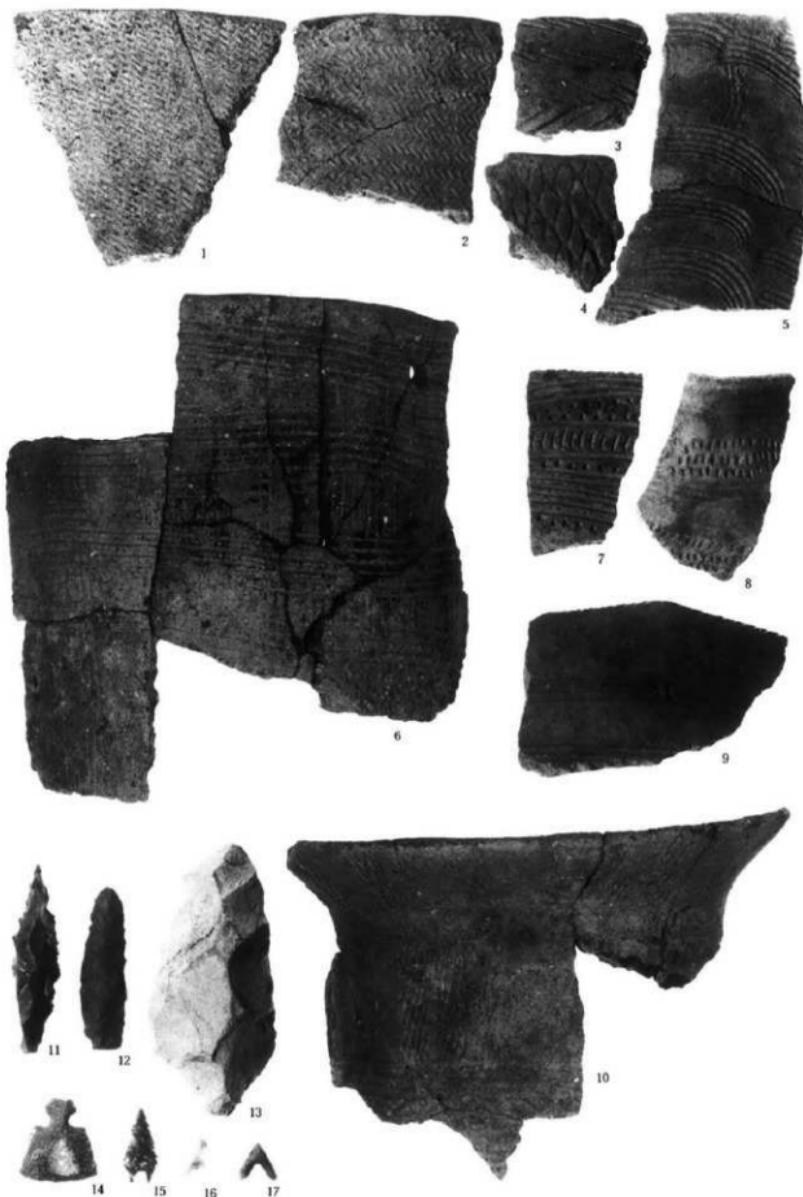
また、A・B・G区の一部で旧石器時代の確認調査を行い、三稜尖頭器や剥片などの遺物及び焼砾の出土を確認している。



第8図 山田第1遺跡出土遺物実測図1(1/2)



第9図 山田第1遺跡出土遺物実測図2 (1/2)

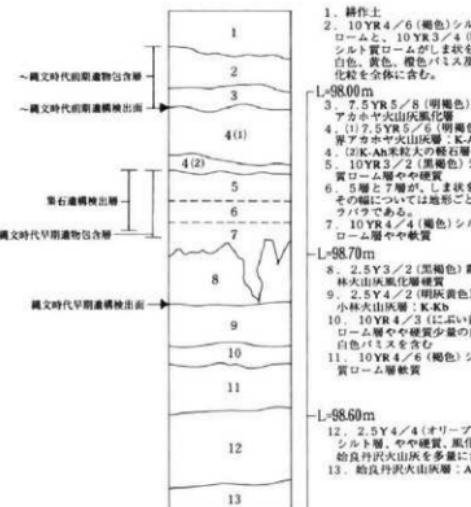


図版 13 山田第 1 遺跡出土遺物

## 第3章 山田第2遺跡

### 第1節 調査の概要

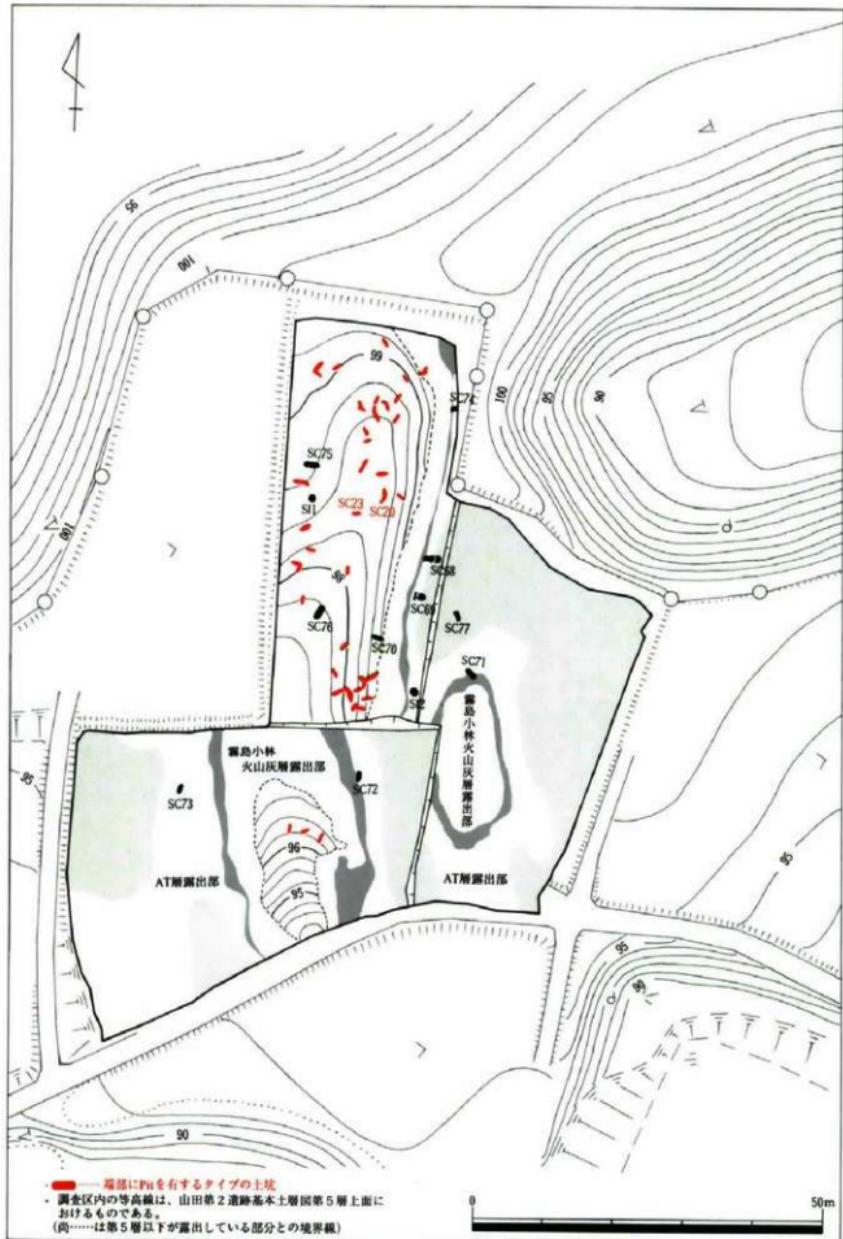
本調査区は緩やかな谷が入り込んでいるうえ現代の耕作により三段に削平されていたため、第1層耕作土を剥ぎ取った段階では、かなりの時代幅を持つ第2層からA T層（第13層）までが旧地形に対応するかたちで露出している状況であった。調査はまず緩やかな谷部に堆積している第2層・第3層の掘り下げ作業から行ったが、両層からは流れ込んだと推測される遺物が若干出土したのみであった。遺物の取り上げ作業終了後、アカホヤ火山灰層（第4層）上面での遺構の検出作業を行ったところ、ここ数年この台地上で検出されている端部にピットを有するタイプの土坑が49基確認された。土坑の記録作業が終了した後、アカホヤ火山灰層（第4層）を重機で剥ぎ取り、その後縄文時代早期の遺物包含層である第5層・第6層・第7層を人力で掘り下げていったが、第5層・第6層・第7層から出土した遺物や焼跡は、第2層・第3層の遺物と同様に流れ込んだ可能性が高いと推測されるものがほとんどだった。掘り下げ作業の途中で検出された2基の集石遺構の記録作業を行いながら、霧島小林火山灰層（第9層）上面及びすでに露出している第10～13層で遺構の検出作業を行ったところ、連穴土坑が4基、陥穴遺構が3基、土坑が3基検出された。尚第10～13層露出部において遺物や遺構が確認されなかったため、調査は前述の遺構の記録作業をもって終了した。



第10図 山田第2遺跡基本土層図(1/30)

図版14 山田第2遺跡全景



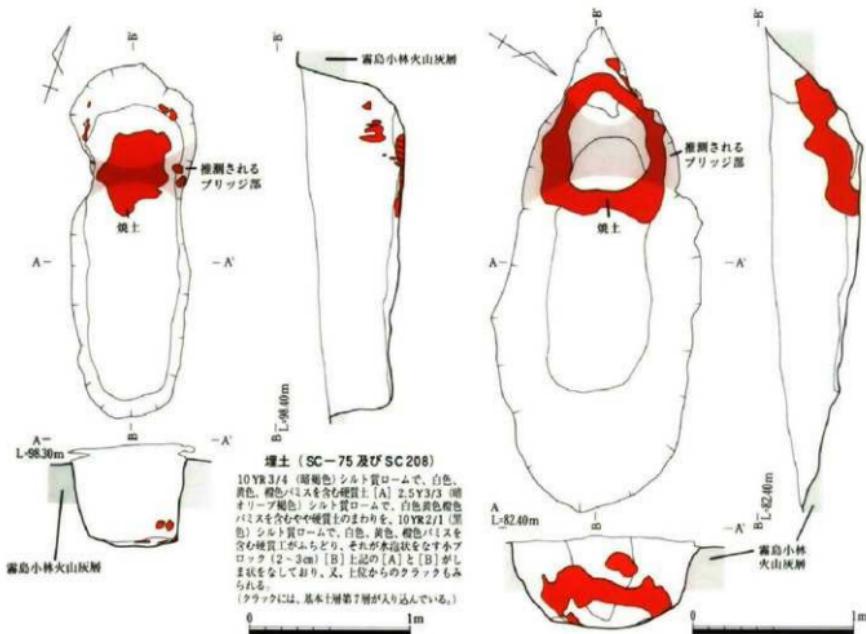


第11図 山田第2遺跡遺構配置図(1/700)

## 第2節 連穴土坑

霧島小林火山灰層（第9層）上面からAT層（第13層）面において連穴土坑が4基検出された。遺構の長軸はいずれも斜面にそっていて、斜面下方に足場が、上方に煙道部が位置していた。又搅乱に影響を受けたものと、一部が調査区外にかかるものを除き、ほぼ完全なかたちで検出されたSC68（図版17）とSC75（第12図・図版16）の足場から煙道部にかけての床面はいずれも水平であった。連穴土坑は近隣の滑川第1遺跡でも検出されているが、煙道部の傾斜が緩やかなことや、足場から燃焼部にかけての床面が下降していることなど（第13図・図版19参照）、山田第2遺跡のものとは幾つかの相違点がみられた。

SC74（図版15）、SC75では燃焼部として使用されたと思われる部分の床面と壁面に焼土が確認されたが、SC68、SC69（図版18）ではブリッジの天井部にわずかに残存していた以外は確認できなかった。ほぼ同一の埋土を有するこれら4基の連穴土坑からは、いずれも焼けた礫が出土しており、特にSC68では直径30cm程の石皿状の焼けた礫も出土しているが、これらはいずれも埋土内に浮いた状態で確認され、遺構との共伴関係は認められなかった。





図版 15 山田第 2 遺跡 SC-74 完掘状況



図版 17 山田第 2 遺跡 SC-68 完掘状況



図版 18 山田第 2 遺跡 SC-69 完掘状況



図版 16 山田第 2 遺跡 SC-75 完掘状況

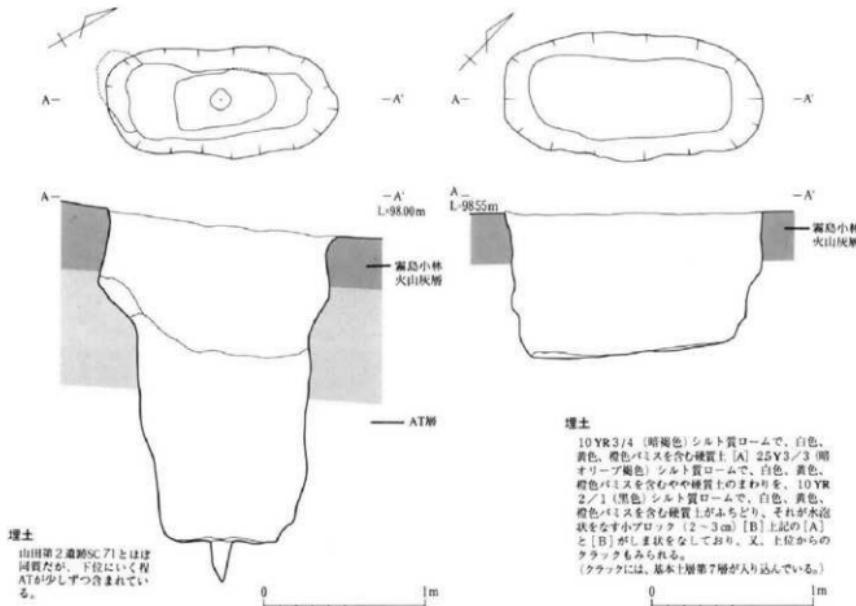


図版 19 滑川第 1 遺跡 SC-208 完掘状況

### 第3節 陥し穴

床面に逆茂木痕と思われる小穴が確認された陥し穴遺構が3基検出された。谷の南斜面にそって構築され、逆茂木痕を1個もつSC70（第14図・図版20・21）は、霧島小林火山灰層（第9層）上面で検出され、検出面での平面プランは長楕円形であった。又、検出面から床面までの深さは約1.9mあり、AT層（第13層）まで掘り抜いていた。掘り込みの形状として霧島小林火山灰層（第9層）からAT層（第13層）の間で1段のすばまりをみせ、平面プランは長楕円形から隅丸長方形に変化し床面までその形状を維持する。1段のすばまりを見せるこの特徴は近隣の滑川第3遺跡に検出された陥し穴遺構でも見受けられた。SC77（図版22、23）は削平の影響で露出したAT層（第13層）で検出されたもので、平面プランは隅丸長方形、検出面からの深さは約1.1mで、床面では小穴が2個確認されている。尚、隅丸長方形プランのSC73については、最終段階で行ったたち割調査で逆茂木痕を確認しており、この土坑も陥し穴遺構であると考えられる。埋土はSC70・SC73・SC77共にはほぼ同一のものであり、出土遺物は含まれていなかった。

又この他に、SC70と似た平面プランを呈し、埋土もほぼ同じ土坑が3基（SC71など）検出されているが、床面が霧島小林火山灰層（第9層）からAT層（第13層）の間で止まっていることや、いずれも逆茂木痕は確認されていないことからみて、これらの土坑の性格は不明である。



第14図 山田第2遺跡SC-70 (1/30)

第15図 山田第2遺跡SC-71 (1/30)



図版 20 山田第 2 遺跡 SC-70 断面状況



図版 21 山田第 2 遺跡 SC-70 逆茂木痕



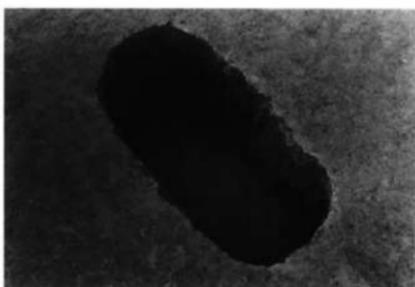
図版 22 山田第 2 遺跡 SC-77 梢出状況



図版 23 山田第 2 遺跡 SC-77 完掘状況



図版 24 山田第 2 遺跡 SC-71 完掘状況



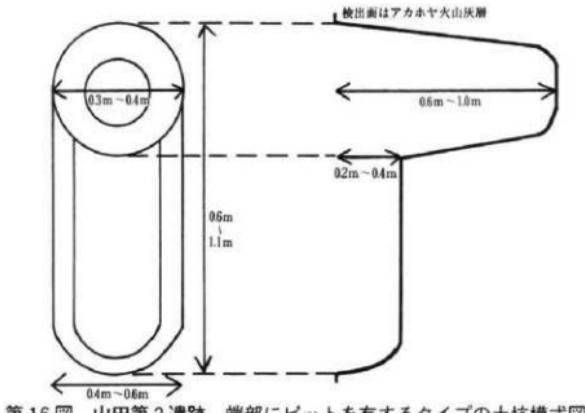
図版 25 山田第 2 遺跡 SC-72 完掘状況

## 第4節 土 坑

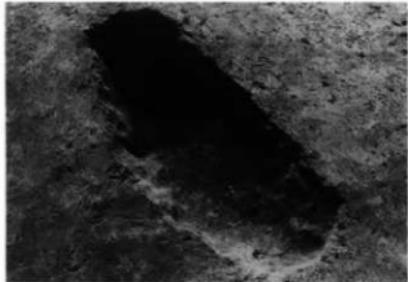
緩やかな谷部のアカホヤ火山灰層（第4層）上面において、端部にピットをもつ長楕円形の土坑が49基検出された。この土坑は概ね模式図の様な形態を呈していたが、1基が単独であるものや複数がL字やくの字あるいは棒状に繋がっているものなど確認された状況は様々であった。

今年度の調査では、土坑と端部のピット及び複数の繋がる土坑どうしの構築時期の新旧関係を明確にしたいとの考え方から、埋土の仔細な観察を行ったが、いずれの新旧関係も確認することはできなかった。ただし、49基のうち10基の土坑で、人為的な埋め戻しの可能性が考えられるアカホヤ火山灰土と第5層土のブロックを多量に含む埋土を確認しており、これについては今後の検討を必要とする。

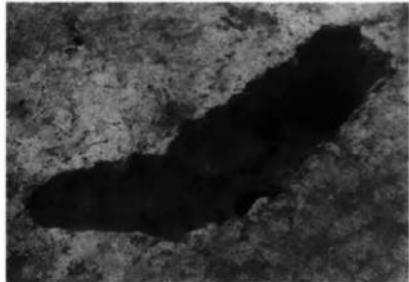
この他に、同じくアカホヤ火山灰層（第4層）上面において、長楕円形の土坑の端部にあるピットと規模や形状が似ていて、埋土も同じであるピットが多数検出されていて、本遺構となんらかの関連性があるのではないかと推測される。



第16図 山田第2遺跡 端部にピットを有するタイプの土坑模式図



図版26 山田第2遺跡SC-23完掘状況



図版27 山田第2遺跡SC-20完掘状況

## 第5節 出土遺物

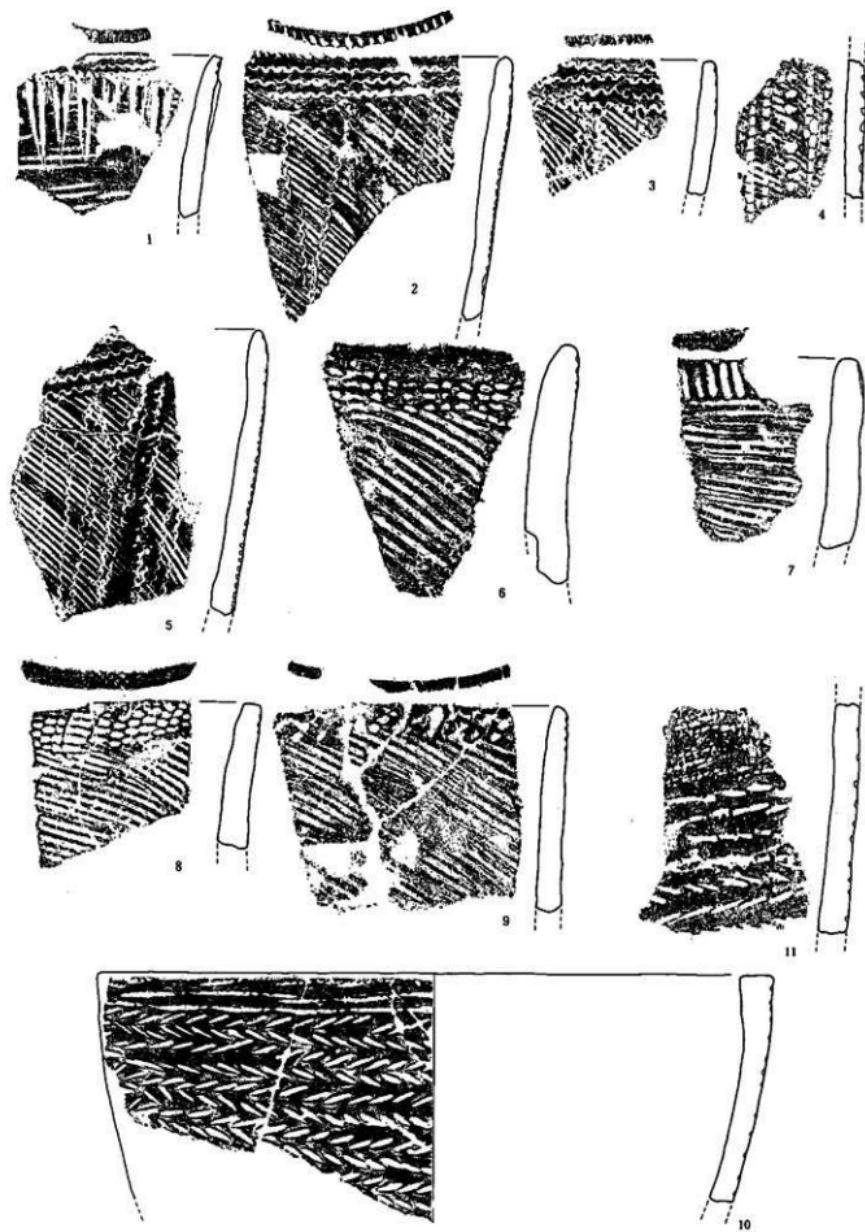
調査区の立地条件からみて、流れ込んだものと推測される遺物がほとんどだったが、そのなかでも注目されるのは前平式系・吉田式系の早期貝殻文系土器である。特に吉田式系については円筒・角筒いずれも出土しており、角筒タイプの出土は同台地上では稀有である。また、町内遺跡である辻遺跡からも出土しているヘラ描きによる綾杉文系土器や、他にも中原式土器、手向山式土器、平桙式土器、塞ノ神式土器などわずかずつではあるが出土しており、縄文時代早期の幅広い時期の土器が確認されている。また石器については、打製石斧、石鎚、磨石などが出土しており、石材は黒曜石（姫島産を含む）、砂岩、頁岩、チャートなどが使用されている。

## 第6節 まとめ

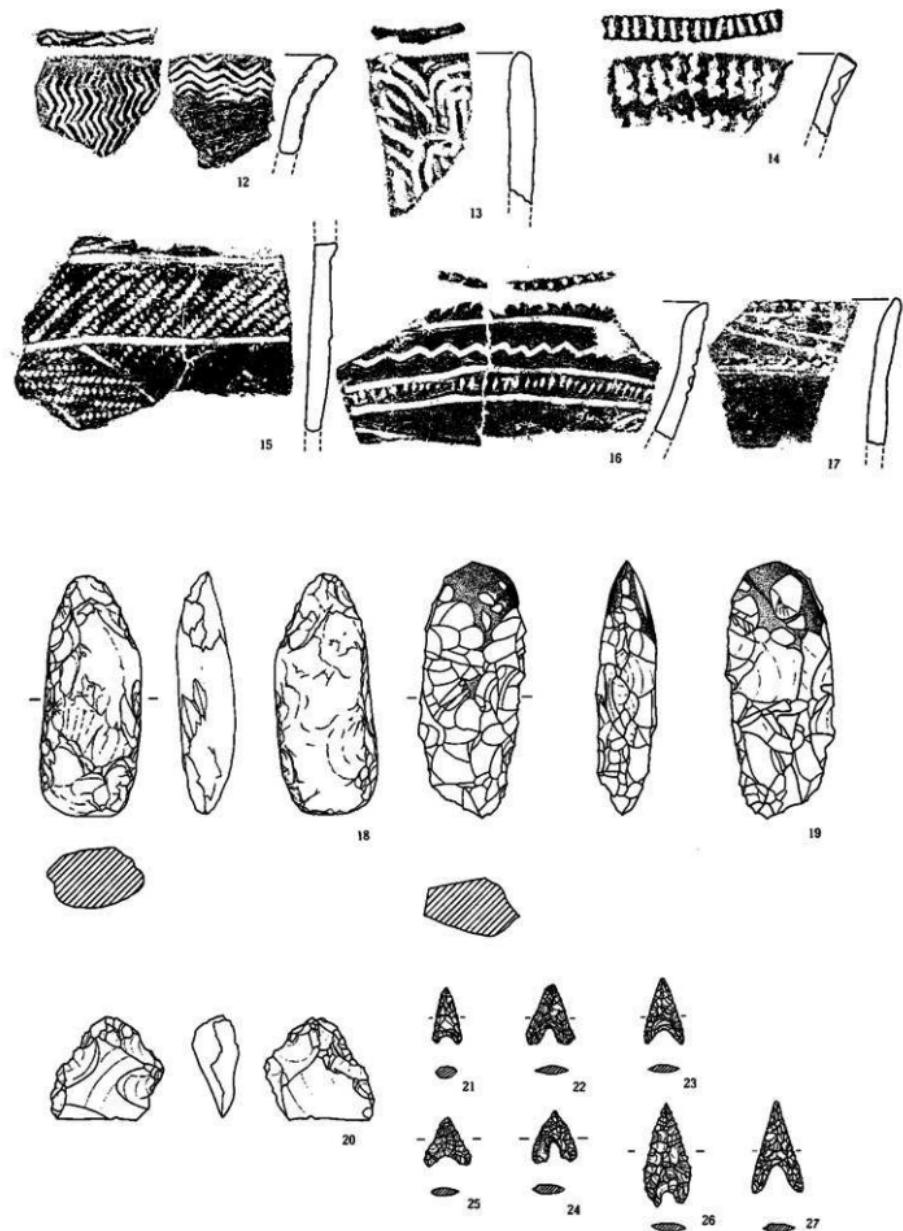
今回の調査についての考察は、調査区の中心が緩やかな谷部であること、又、他の調査区は現代の耕作によりかなりの削平を受けていて、第2層からAT層（第13層）までがすでに露出している状態だったこと、この2点を踏まえたうえでまとめていきたい。

まず連穴土坑であるが、4基全てが谷の傾斜を利用する様に斜面にそって、しかも単体で構築されていた。近隣の椎屋形第2遺跡などで見つかっている拡張を繰り返すようなケースは確認しきれなかったが、これが本遺跡での連穴土坑の使用が短期間であったことを意味するかどうかは定かではない。陥し穴構については、逆茂木痕の確認されたものが3基検出されたが、滑川第3遺跡のような配置の意図が推測できるうる調査条件でなかったため、それぞれの陥し穴の関連性までは確認できなかった。集石遺構については、今回の調査区域ではわずかに2基しか検出されなかったが、谷部にはかなりの量の焼礫が流れ込んでいて、調査区外の南東側の丘陵尾根上の平坦部には、かなりの数の集石遺構が存在している可能性がある。又、端部にピットを有するタイプの土坑については、遺構の配置や向き又周りのピットとの関係などなんらかの規則性をもって構築された形跡は相変わらず見あたらなかった。唯一ここで述べることのできるのは、滑川第1遺跡、白ヶ野第1遺跡そして本遺跡と、緩やかな谷部に第2層が堆積しているところで、このタイプの土坑が検出されていることのみであろうか。

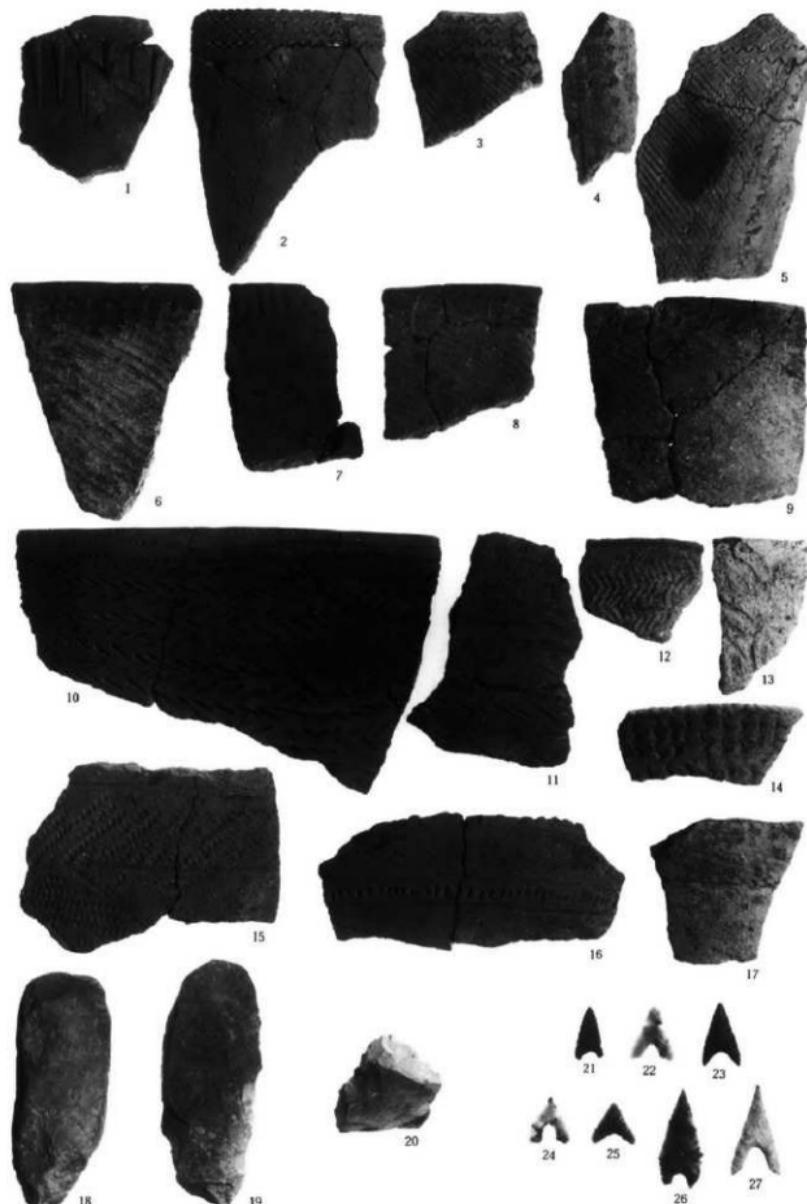
以上が今回の調査についての主な考察であるが、これらのことから、縄文時代早期において、調査区外の南東側の丘陵尾根上の平坦部を中心として人々が生活していたことが推測される。



第17図 山田第2遺跡出土遺物実測図1(1/2)



第18図 山田第2遺跡出土遺物実測図2(1/2)



図版 28 山田第2遺跡出土遺物

## 調査抄録

フリガナ	ヤマダダイイチイセキ・ダイニイセキ					
書名	山田第1遺跡・第2遺跡					
副書名	県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査概要報告書					
卷次	第1集					
シリーズ名	清武町文化財調査報告書					
シリーズ番号	第8集					
編集者名	井田篤・松原一哉					
発行機関	清武町教育委員会					
所在地	宮崎県宮崎郡清武町大字船引204番地					
発行年月日	2000年3月					
所在遺跡名	所在地	市町村：遺跡番号	北緯	東經	調査期間	
山田第1 山田第2	清武町 大字船引 字山田	清武町：208(1) ：208(2)	31°52'24" 31°52'22"	131°22'16" 131°22'24"	99.428~00.330	
調査面積	調査原因	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
7400m <sup>2</sup> 4300m <sup>2</sup>	農業関連	集落	旧石器 縄文	土坑、集石遺構 陥し穴遺構 竪穴式住居跡	縄文式土器 石器	

清武町文化財調査報告書 第8集

山田第1遺跡  
山田第2遺跡

発行年月 2000年3月

編集・発行 清武町教育委員会  
印 刷 株式会社宮崎南印刷

